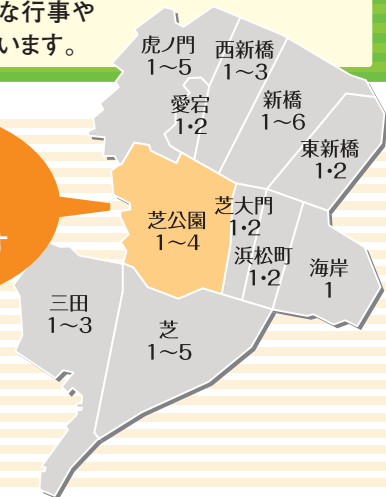


『芝地区地域情報誌』は、地域の皆さんとともに創る情報誌です。芝地区の「いい話」を紹介したり、様々な行事や活動の情報を交換したり、地域の皆さんと一緒に地域のことを考えていく場として、地域情報誌を発行しています。

ぽっかりと都心に広がる 秋の空

第9号の表紙は
芝公園
エリアの話題です



都立芝公園は明治6年(1873)に開園した都内でも最古の公園のひとつです。都営地下鉄三田線御成門駅から芝公園駅に広がる都心のオアシスです。

中高層ビル建設がすすめられている芝地区一帯ですが、なかでも昨年オープンした「区立芝公園」は、都会の真ん中で青空が開ける貴重な場所となっています。公園南隣りの丸山古墳の頂上からは四季折々の自然が感じられ、都会の喧騒をひととき忘れさせてくれる、憩いの広場です。これからも守ってきたい緑がたくさんある場所です。

芝地区の“幸せ”

今年開業50周年を迎える東京タワー

いつも近くに東京タワーが見えることは、芝地区の幸せのひとつではないでしょうか。

平成18年(2006)には来塔者が累計1億5000万人を突破し、日本の人口1人あたり1回は訪れている計算になります。日本の観光スポットとして訪れる人の列が絶えません。

東京タワーは、昭和33年(1958)12月23日に開業し、今年開業50周年を迎えます。当時は、次々とテレビ局が開局して、それぞれ電波塔をもっていました。しかし、今後電波塔が増加していく状況と都市景観の観点からも、電波塔の1本化が求められていました。首都圏の各家庭に電波を送る条件として、強固な地盤が広がり、海拔の高い場所が必要でした。また電波塔の役割だけではなく、展望台を併設した観光施設の建設を目指していたため、

東京の情景が一望でき、工場の煙などによる影響を受けない場所ということも考慮され、この場所が選ばれました。他に、候補地として、上野公園もあがっていました。建築は、耐震建築の権威、当時の早稲田大学名誉教授、内藤多仲工学博士が設計しました。大阪の通天閣や名古屋テレビ塔も設計されています。国産の鋼材等を使い、職人さんたちが危険と背中合わせで、一つひとつ組み立てました。当時の最高技術が創造した、メイド・イン・ジャパン・タワーです。50年たった今日もテレビ・ラジオの送信塔として、観光地として時代に対応し続けています。

特にライトアップは美しく、夏はシルバー色で涼しく、冬はオレンジ色で温かみを演出。またイベントによってもピンクやブルーなどに輝く日があり、見る人を楽しませてくれています。夏用カラーはだいたい七夕の夜から9月末まで、冬用カラーは10月初旬から変わります。色を変える日は、早朝に総勢約20名で電球を交換しているそうです。このライトアップですが、深夜0時に必ず消灯します。近年消灯の瞬間を見るカップルが急増し(これを恋人同士で見ると幸せになれるとか…)、夜間作業がある日もいったん深夜0時に消灯してから、30分後に再点灯、再度作業を開始するという配慮もしています。現在のライトアップが始まったのは平成元年(1989)からで、それまではタワーの輪郭を光の点描で映し出すイルミネー



ションでした。周囲には高層ビルもない時代の人の目に映る東京タワーの夜景はどんな感じだったのか、想像することしかできませんが、まさに映画『ALWAYS 三丁目の夕日』の時代の風景が浮かびます。

現在、1階正面玄関前では12月25日まで、ライトアップとともに一緒に楽しんでもらおうとクリスマスイルミネーションを点灯中です(9時~24時点灯)。元日には、初日の出を見ようと大勢の人がいらっしゃるので、東京タワーは大忙しです。通常は、毎週水・木・金曜日に大展望台特設ステージで音楽イベントも行っています。東京タワーの楽しみ方、いろいろありそうですね。

〔文■小林 真紀子〕
〔写真提供:東京タワー〕



東京の情景が一望できる場所としてこの地が選ばれました

命綱ひとつで職人さんたちが作業に挑みました



浜松町駅プラットホームの人気者♪

小便小僧 今昔物語



北京五輪開催時の8月は、卓球選手の姿になりました

JR浜松町駅。山手線外回りと横浜方面に向かう京浜東北線の電車が絶え間ないプラットホームの田町寄り最前部で、季節の衣装を着た小便小僧が、台の上から体を反らせて前の池に元気よくおしっこをしています。気がついて振り返る人、写真を撮る人、けっこう人気者です。

戦争の傷跡が街にも人の心にもまだ残っている昭和27年(1952)、鉄道開通80周年を記念して、「人々が**大勢集まる駅をぱっと明る**い**雰囲気**にしたい」と浜松町駅の椎野栄三郎駅長は考え、友人で国鉄嘱託歯科医師の小林光氏に相談したところ、診療所の中庭にあった陶器の像を指さし「これはどうでしょう。よかつたら寄付しますよ」と言われました。その像は医師の長男光道氏(現在、世界貿易センタービル14階小林歯科医院理事長)の誕生記念に作られた小便小僧でした。そして同年10月14日に浜松町駅に男の子は姿を見せました。もともと小便小僧は、ベルギーの首都ブリュッセルの街のマスコットとして、1619年に作られたものです。そのいわれは諸説ありますが、男の子のなにかほっとした表情を見ると、「13世紀の初め、街が敵に囲まれた時、城壁に仕掛けられた爆薬の導

火線に男の子がおしっこをかけて火を消し、街を救った」という話が一番ふさわしい気がします。(そう言えば新橋駅近くのベルギー料理とビールのレストランにも像がありました)

像は設置された当初から衣装を着ていたわけではなく、ある寒い日に女の子が毛糸の帽子をかぶせたのが最初と言われています。昭和30年(1955)5月、改修工事を終えたプラットホームに、小林医師から新しく寄贈されたブロンズの像が、愛の使者キューピッドの衣装で登場。この衣装は当時浜松町の会社勤めていた田中栄子さんの手によるものでした。亡くなるまでの30年間に作られた衣装は200着以上。田中さんのこの像への熱い思いが感じられます。

田中さんが亡くなられて像は裸に戻りましたが、昭和61年(1986)、港区社会福祉協議会などとボランティアセンターの登録団体である『手芸グループ あじさい』に、芝消防署から、火災予防運動に際し小便小僧用に防火PRの衣装を作ってほしいとの依頼があり、その年の11月より現在の着せ替えが始まりました。

『あじさい』の始まりは、身体の不自由な方が身に着けられるようなものを作ろうというもので、これはいまでも続けています。また毎月9日にメンバーが集まり、寄付していただい

た端切れなどで、袋やポーチなどを作り、バザーなどで展示販売して、売上金は全額港区社会福祉協議会に寄付しています」とメンバーの平田美弥子さん。代表の吉成京子さんは「当初は像の衣装作りは1回だけの予定でしたが、裸に戻すのはかわいそうと毎月衣装を作って22年間で約250着になりました。衣装は月々のイベントを参考にしたり、メンバーで話し合ったりして決めています。何か良いアイデアがあればご連絡ください。また今メンバーは10名ですが、活動に参加ご希望の方のご連絡をお待ちしております」と語ってくださいました。毎月26日の『あじさい』の方達による着せ替えの日に、栃木県足利市から来られ、衣装姿の写真を撮ったり像や池の清掃をされたりする酒谷潤一さん。駅を明るくしたいという駅長の思いは、時が流れ周囲の景色が変わっても、大勢の人に受け継がれてきています。

〔文■岩崎 秀顕〕
〔写真提供:あじさい〕

info
『手芸グループ あじさい』へのお問い合わせは
港区社会福祉協議会などとボランティアセンターへ
芝公園2-7-3 3F
TEL 03-3431-2081



毎月26日、休まず着せ替えを続けている「あじさい」の皆さん
9月26日には「秋祭り」をテーマにした着せ替え作業を行いました



神明小学校跡地に2008年6月、 新しく生まれ変わった 港区立エコプラザ

オフィス街で 森林浴体験

『毎日がアースデイ(地球の日)』というエコプラザのテーマに興味を抱きながら、今回初めて訪れてみました。施設長の白鳥芳洋さんに案内されながらスペースに一歩足を踏み入ると、「環境学習施設」という固いイメージがすぐに吹き飛びました。床や壁、そして吹抜けの天井と、樹齢60年の杉の間伐材によって作られた空間は、木目の色調も工夫された美しい仕上がりで、自然の温もりが充分に味わえます。間伐材はすべて、あきる野市の「みなと区民の森」か



旧小学校の椅子(左)と杉の木製の椅子 自習室の蔵書

ら切り出されたものを使っており、森づくりの取り組みのひとつを体験することができま。建物には仕掛けが隠されている」という白鳥さんの言葉から、まず明かされたのは、壁のはめ込み式の椅子たち。壁面の模様のように見えますが、段ボールの素材からできている150個の椅子が、すっきりと壁にはめ込んで収納されています。さらに壁に収まった椅子の穴は、ポスターなどのパネルをかけることができるのです。いっけん見過ごしそうな所にもユニークな発想がちりばめてあります。そして、なつかしい椅子を発見。旧小学校の40年前の工作室の椅子も再利用されています。かつて小学校であった歴史の地とパトナタッチしてきたエコプラザの「学校の歴史の面影も残していきたい」という思いが、ここからも伝わってきます。スペースは、サーチャング

ルーム(自習)、ワーキング・ルーム(実習)、ラーニング・ルーム(研修)からなっており、自習室の蔵書は、環境関係の珍しい本が800冊あり、自由に閲覧することができます。また施設では、専門性の高い講座も実施されています。環境問題を学んで社会に貢献するインストラクターになることを目指した内容になっており、最後には修業証書がもらえます。子ども向けのワークショップも好評で、講座と共に区報やホームページを中心にお知らせをしています。お勤めの方も休み時間には、このスペースを訪れているそうです。白鳥さんは、その光景に「このスペースに在るだけでも落ちつきますよ。森林浴ですね」と笑顔で語ります。自然を求めているだけでも、環境への関心を高めるこ



取り出した段ボール製の椅子

info
港区立エコプラザ
浜松町1-13-1
TEL 03-5404-7764
●開館時間／9時30分～20時
(休館日:毎月第4月曜日と年末年始(12/29～1/3))
<http://www.eco-plaza.net/>

とになるのだと感じました。エコプラザには、地球環境を考えるための楽しいヒントがたくさん詰まっています。

〔文・写真■桑原 庸嘉子〕



メッセージカードを書いてメリーツリーに飾ったら、どんぐりの苗をプレゼント! いっしょにアイベントもあります。

日本赤十字社

佐野常民と日本赤十字社

赤十字情報プラザで日本赤十字社の成り立ちについて聞いてみました

日本赤十字社はどのようにして生まれたのですか?

佐賀藩出身の佐野常民(さのつねたみ)という人物がいました。研究心旺盛で佐賀藩のなかでも優秀な人材でした。慶応3年(1867)にフランスのパリで第5回万国博覧会が開催され、当時のフランス政府から江戸幕府に出品などの誘いがありました。薩摩藩と佐賀藩は、幕府とは別に出品参加し、このとき、佐賀藩を代表して博覧会に参加したのが佐野常民です。常民は博覧会でいろいろなものを見聞きました。特に、彼が深い感銘を受けたのが、ヨーロッパでの赤十字活動の内容で、これが近代日本をつくり、文明開化の基礎になると考えたことが、日本赤十字社を作るきっかけになりました。



本社前に立つ佐野常民の銅像

帰国後、常民は日本にも赤十字社を作ること考え、明治10年(1877)西南戦争が始まると政府太政官に赤十字社の前身となる博愛社の設立を願い出ました。しかし、社則第4条に「敵味方の差別なく救護する」と規定したこと

の理解を得ることができず、設立は認められませんでした。そこで、官軍の大將、有栖川宮に願いを届けると、宮の賛同が得られ、博愛社が設立されました。官軍も鹿児島軍も敵味方区別なく傷ついたひとを救護したことが、博愛社の最初の活動でした。しかし西南戦争のときは、準備不足、人材不足、財源不足のため博愛社の活動は十分な成果を挙げたとはいえませんでした。その反省を踏まえ、平和な時期に組織を固め、いざというときに活発な救護活動ができるような団体に生まれかわるように話し合いを続けました。博愛社が赤十字社として国際的に認められるには、ジュネーブの赤十字国際委員会の承認が必要で、その条件として日本政府がジュネーブ条約に批准することが必要でした。赤十字は一国にひとつの組織と定められ、博愛社が正式に日本赤十字社として承認され、名称も変更したのは明治20年(1887)でした。アジアで初めての加盟国となりました。

日本赤十字社の活動は?

明治21年(1888)の磐梯山噴火の災害救護が日本赤十字社の初めての活動でした。その後、災害救護の要員の養成は急務でした。より良い救護要員を養成するための病院もつくり、最初の看護学教程を編纂。いまの看護制度の基礎となりました。日清、日露の戦争では敵国である清国やロシアの傷病兵を日本に船で連れてきて看護し

ました。日中戦争が始まり昭和15年(1935)からは救護班が直接戦地に行っています。戦時中の救護本部は現在の本社のある場所に置かれました。最前線に救護看護活動される要員を派遣していました。情報プラザには当時戦地へ行かれた看護士の手記がたくさんあります。昭和20年(1945)に広島、長崎に原子爆弾が落ちて、その救護活動が戦時救護の最後でした。現在の活動には、献血活動、救急法等の普及、災害での国際救護活動などが加わっています。もうひとつご紹介したいのは救護員の像です。救護活動中にお亡くなりになった救護員の方の名簿が収めてあります。この情報プラザや救護員の像は一般の方に公開しています。ぜひご来館いただきたいと思います。



殉職救護員慰霊碑

info
赤十字情報プラザ
東京都港区芝大門1-1-3
TEL 03-3437-7580
●開館時間／9時30分～17時
(休館日:土・日・祝日、年末年始及び5/1の創立記念日)

プロに聞いたレシピ

Irish Shepherd's Pie (アイリッシュ シェパーズ パイ)



平成18年(2006)度港区商店グランプリで港区長賞を受賞したアイリッシュパブ THE IRISH TIMES(ザ アイリッシュ タイムズ)のシェフにアイルランドの家庭料理を教えてくださいました。アイルランドのレストランには必ずある定番のメニューです。

info
アイリッシュパブ THE IRISH TIMES
新橋2-9-16 愛媛新聞社東京ビル1階(新橋赤レンガ通り)
TEL 03-3500-0200

材 料 (4人分)

●ミートソース
たまねぎ — 1/2個(みじん切り)
にんじん — 4/5本(みじん切り)
にんにく — 4片(みじん切り)
鷹の爪 — 1本
ローリエ — 2枚
合挽き肉 — 200g
赤ワイン — 500cc
トマトのホール缶 — 2缶
クローブ — 2本
サラダ油 — 50cc
塩、ホワイトペッパー — 少々
エストラゴン、タイム、バジル、オレガノ、ローズマリー(すべて乾燥したもの) — ひとつまみずつ

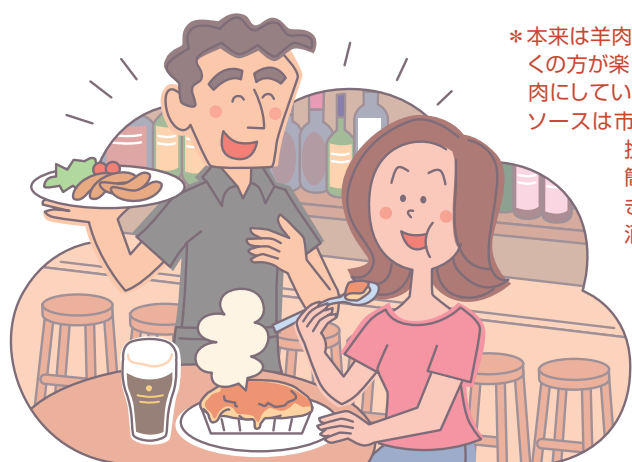
●マッシュポテト
ジャガイモ(メークイン) — 3〜4個
生クリーム — 適量
バター(無塩) — 10g
●ミックスチーズ — 適量
(加熱用のものなら、なんでも可)

●ソース
フンドボー(市販のもの)2に対して、サンデマン・ルビー・ポート(赤ワインにハチミツを入れて代用してもよい)3の割合で!

作り方

- なべにサラダ油50cc、たまねぎ、にんじん、にんにく、鷹の爪、ローリエを入れ、しんなりするまで炒める。
- ①に合挽き肉を入れ、なべ底が少し焦げる程度に焼き炒める。
- ②に赤ワイン500ccを入れ、水分がなくなる手前まで煮詰める。
- ③にトマトのホール缶、クローブ、エストラゴン、タイム、バジル、オレガノ、ローズマリーを入れ、焦がさないように中火で20〜30分煮詰める。

- なべの水分がなくなる5分位前にトマトをつぶしながら、塩とホワイトペッパーを入れなじませる。
- ジャガイモは皮をむいて、3等分に切り、くしが通るまでなべでゆでる。
- ⑤をざるに上げ、水分を切り、なべにもどしてマッシャーなどでつぶす。
- ⑦に生クリーム、バターを加え、1分間混ぜた状態でなじませる。
- パイ皿に⑥を敷き、その上に⑦を入れ、ミックスチーズをのせる。
- オーブンに⑧を入れ、チーズに焼き色がつくまで焼く。
- 焼きあがったらソースをかけてでき上がりです。



*本来は羊肉を使うのですが、多くの方が楽しめるように合挽き肉にしているそうです。ミートソースは市販のソースの素に挽き肉をプラスして、簡単に作ることもできます。おかずにも、酒のつまみにもなる一品です。

秋の文化・芸術特集

エイジレス・ライフ

～水墨画と地域の友が元気の源～



田川 啓次郎さん
大正11年(1922)生まれ
86歳

太平洋戦争も半ばを過ぎた昭和19年(1944)6月、就職動員で九州から上京し、狸穴の通信省工務局(NTTの前身)に就職しました。以来、私の第二の故郷は現在住んでいる芝5丁目です。

昭和20年(1945)2月に志願兵として入隊し、船舶兵として訓練をうけましたが、戦地に赴くことなく終戦を迎えました。そのまま復職し、電気技術者として仕事をしていたので、子どもの頃好きだった絵を描くということを、退職するまですっかり忘れていました。

昭和63年(1988)、何気なく近くの芝福祉会館に行ったとき、「水墨の世界」に出会ったのです。絵が大好きだった子どもの頃の純粋な想いが沸々と湧き上がりました。墨の濃淡や1本1本に心を込めた線

の力で、森閑とした風景や豊かな色彩までも感じさせる水墨画の世界に、私は「あっ!」という間に引き込まれてしまいました。水墨の師として石原古谿先生に5年間師事し、水墨画の基本をみっちり叩き込まれて10年がすぎた頃だったでしょうか、水墨の仲間から頼まれ、白金台福祉会館の集会室でサークル活動を始めました。

仲間と始めた水墨画の会も今年で10年、私の日常生活は水墨に始まり水墨に終わっています。水墨という墨の濃淡だけで果実や草木、自然を表現するおもしろさは、同じ題材をくりかえし描いても決して同じ作品にはならないというところにあります。描くときの心の状態、調墨(墨の濃淡の付け方)の仕方、天気などの自然環境に影響されるからでしょうか。

この水墨の魅力を一人でも多くの方に知っていただきたくて、三田福祉会館や白金福祉会館など区内10箇所の施設で生徒約130名に囲まれて楽しく描いています。どの教室も仲良く和気あいあいとしています。参加者には90歳を超える方もいて、技術の向上だけではなく、地域のさまざまな方との交流が楽しめます。

虎ノ門健康福祉館とらトピアや特別養護老人ホームサン・サン赤坂で、デイサービスボランティアとして水墨画を教えています。利用者の方は誰でも参加できるように工夫していただいています。最初ははずかしそうに遠くから眺めている人が、だんだん興味を持ち、今では自分の作品が展示されるのを楽しみに、積極的に参加しています。水墨画に触れることで参加者の方々に笑顔が多くなってきたように感じられることが、私にとって一番嬉しいことです。また、障害の残った手で一所懸命に描いた一本の線に「はっ!」とさせられます。一心に自分の想いを表現しようとする中で生きる線の力強さに、「水墨の世界」の奥深さを改めて教えていただいた瞬間でした。感謝です。

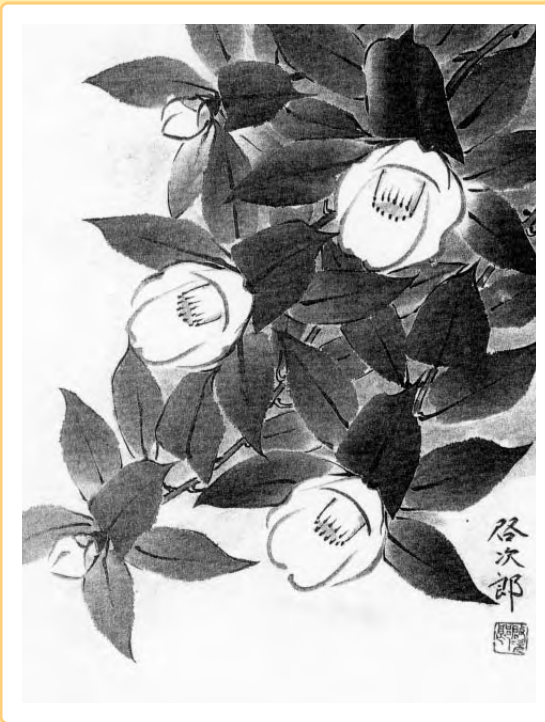
平成16年(2004)には、内閣府から「エイジレス・

「自由と平和を愛し、文化をすすめる日」として祝日になった「文化の日」がある11月。まさに、文化・芸術に親しむ絶好の季節です。本誌も文化・芸術をテーマに記事を集めました。



ライフ実践者』(注)という賞をいただきました。水墨画を長く続けて地域の方と交流してきたことがこの賞をいただくきっかけとなりました。私が水墨画を描くときに大切にしていることは、うまいへたではなく、果物はおいしく、草花はきれいに、自然は美しく、感動したことを素直に表現することです。お互いの個性を尊重し心豊かに地域の方と一緒に描くことが毎日の新たな発見につながり、私自身の励みとなっています。これからも時間の許すかぎり墨の美しさを追求しつつ地域の皆さんと仲良く暮らしていきたいと思っています。

(注)エイジレス・ライフ実践者…年齢にとらわれることなく、自由で生き生きとした生活を送ることを実践している方々等を表彰するものです。



刀剣の魅力

SAMURAI'S ART

桜田通りで明治時代から続く骨董店を営む伊波賢一さんに、美術日本刀の魅力や日本の伝統文化についてお聞きしました。



サムライ美術の魅力を語ってくださった伊波さん(株式会社 日本刀剣 社長)

—お店の歴史、街の変化を教えてください—

日露戦争に出征し負傷して帰ってきた曾祖父が、すぐに働けないので好きだった骨董の仕事を始めたのが創業のきっかけと聞いています。

第二次大戦後、米国からの指示により刀は没収対象となりました。確かに日本刀は「切る」武器ですが、技術的に非常に価値の高い、日本の伝統的な美術であるということを訴え、美術品としての価値を認められました。そのため、駐留軍がいた時代、この店の品は販売できなかったものの、没収されるようなことはありませんでした。

現在も日本刀は武器ではなく美術品として、刀鍛冶が作る年間の最大数は24振までと決められています。桜田通りは桜田門に通じ、武家屋敷が多くあったため骨董品の需要が高く、骨董屋が集まりました。かつては「骨董通り」と呼ばれていましたが、モータリゼーションとなつてからは国道1号線ということもあり車関係の店が増え、開発によって街全体が整理され、都市化が進み、現在骨董店は8軒のみになりました。

—骨董品の魅力とは？—

それぞれ先人たちが作り出した一品のものであり、同じものが二つとありません。そのため、必然的に品物との出会い、人との出会いを大切にすることになります。そこが骨董品の一番の魅力だと思います。また、何百年も前の先人たちの作品を実際に手に持ち、感動を共有することができるのも大きな魅力です。

—日本の伝統的な技術で世界に誇れる点は？—

機能として必要なものを素直に取り入れ、与えられた条件のなかで最高のものを作り出したという点だと思います。西洋の鎧が一面金属で覆われているのに対し、日本の鎧は軽量化を図り、運動性・運搬性を追求した上で、防具としても高度な機能を持っていたと言われます。さらに兜の縁のように防具として目立たないところに彫金を施すなど、芸術性の高い部分も至るところに見られます。戦い方の変化によって、刀の長さ、反り、強度も変化しており、先人たちが「研究、追究した成果を楽しむことができます。

—最後に…伝統文化について一言—

技術というものは、一度途切れてしまうと再び興すのが極めて困難です。伝統技術を継承する環境を公の機関がつくるなど、社会全体で職人を支えていくことも大切なのではないかと思います。

現代社会においてはお金でものが動くような風潮が若干ありますが、やはり人々との心のつながりのような、アナログの部分でのよさを日本人として持っていたいし、若い人たちにも持っていてほしいと思います。世界的にも評価の高い、細部にまで心遣いをする日本の伝統技術は忘れずにいたいですね。

私たちの仕事は、過去何百年と伝わる品物を次の世代に引き継ぐ「橋渡し役」に過ぎません。その役が代々続いてきたから今日まで伝わってきているのであり、私はこの仕事を通じ、品物を健全な状態で、そして精神的なものも次の世代に伝えていきたいです。

港区で楽しむアート

3

「乙女と盲導犬」とライオンの彫刻、 「テミス像」

新橋駅西口広場に、ジャーマン・シェパードのハーネスを手にし、背筋を伸ばし、清々しい「乙女と盲導犬」の像がある。聖－俗、善－悪、富－貧、貴－卑、愛－憎などに彩られる人生に、視覚を手にして凜と怯むことなく歩もうとする乙女は、まさに一陣の風のように爽やかである。人で溢れ、ネオン輝くこの街が、何時になったら視覚を手にした乙女を自然に受け入れる、「ぬくもり」に満ちたコミュニティになるのかと、となりの彫刻「ライオン」は見ている。

東京虎ノ門ライオンズクラブが盲導犬の育成に力を注ぎ、さらに啓蒙のために、橋本次郎作の「乙女と盲導犬」を昭和44年(1969)日比谷公園内に建立し、昭和49年(1974)10月新橋駅前に移設、寄贈した。この彫刻の脚下に川内康範作の詞が、「街はこんなにも明るいのどこかに陰りのある ころのささくれ あなた 語らずにぬくもりを 求められずにぬくもりを あつ街に この街に」と謳っている。



彫刻の「ライオン」の先に「乙女と盲導犬」の像が…



「乙女と盲導犬」の台座には川内康範作詞のレリーフがある

さらに虎ノ門方面に歩を進めてみよう。西新橋・虎ノ門法書ビル前に、天秤と剣を手にした「テミス像」(堤直美・作)がある。古来より、「天秤」は法の公平・法の理念に基づくバランスある裁きのシンボルであり、「剣」は正義を実現する力を象徴する。この2つのシンボルを手にしたテミスは、ギリシャ神話において法と正義を司る女神である。

最高裁判所前にもテミス像があるが、あちらは剣を上突き上げ誠に勇ましい。翻って虎ノ門のテミスは、剣を下方に、天秤を高く掲げている。製作者の意図により、微妙に趣の異なるテミスが完成されるところが面白い。

取材協力：東京虎ノ門ライオンズクラブ 四倉 榮次郎 虎ノ門法書ビル

(文中敬称略)

(文 ■ 小知和千佳子、森 明 / 写真 ■ 小知和千佳子)

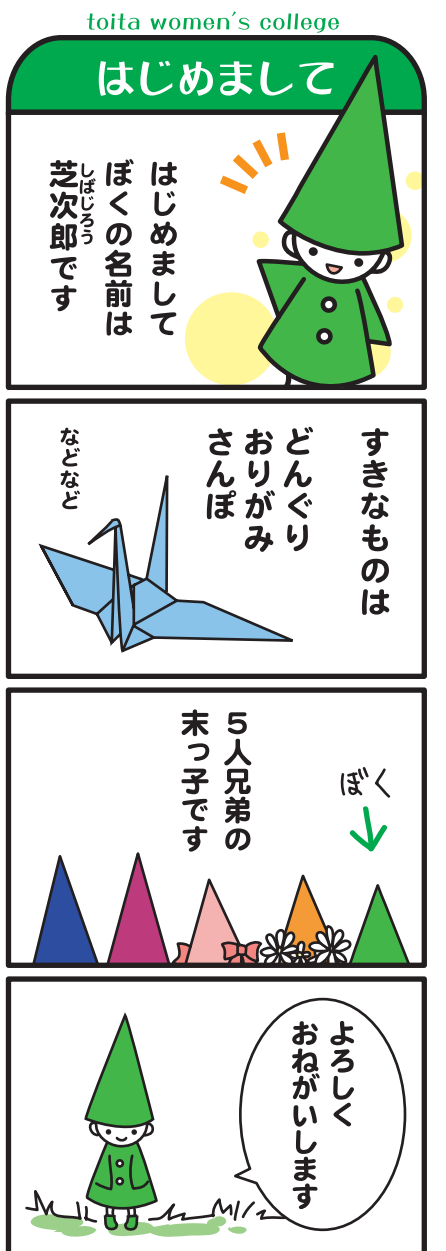


新橋駅西口広場 新橋2-16
虎ノ門法書ビル 西新橋1-20-3



赤銅彫の女神像は、川内康範作詞の「乙女と盲導犬」の像の先に設置されている

* 芝次郎はまちをきれいにするために生まれた、おそうじの妖精です。今日も芝地区のどこかで頑張っています。そんな、ちょっぴり恥ずかしがりやな芝次郎たちが大活躍する4コママンガのはじまりです。
戸板女子短期大学 エコデザイン研究会



eco design ※ え・まつもとがずこ



虎ノ門は私の故郷

三島正吉さん 昭和4年(1929)生まれ 79歳

戦争の現実をまったく 知らなかった小学校時代

芝西久保櫻川町に生まれた芝っ子3代目です。西櫻尋常小学校に入学した翌年昭和12年(1937)に支那事変が起こりました。戦争でたくさん人が死んだり傷ついたりしていたのに、子どもたちはまったく知りませんでした。その一方で、大人たちは、お国の政策で隣組を編成したり、防空演習したりして、だんだん激しくなる戦争への流れに飲み込まれていきました。

当時の学校では、1月1日「四方拝」、2月11日「紀元節」、4月29日「天長節」、11月3日「明治節」を四大節といって、講堂で校長先生から『教育勅語』を聞かされ、歌を歌って祝いました。小学1年生には『教育勅語』は内容が難しくわかりませんでした。内容がわからないまま長い時間ずっと立ちっぱなしで、動くと怒られるし、とても大変でした。でも、式の後で配られる紅白饅頭のために必死で頑張っ

て聞いていました。弁当を持って来られない子がだんだん増えてきたので、西櫻小学校では昭和16年(1941)に給食が始まりました。当時としては斬新だったので、ますますお昼が待ち遠しく、みんなで一緒に食べられるようになったのがとっても嬉しかったことを覚えています。



遊びを通した戦争の思い出

菊嶋 宏さん 昭和6年(1931)生まれ 77歳

子どものころ遊びには 苦勞しませんでした

私は昭和6年生まれで、神明小学校出身です。小学校入学前は、明徳幼稚園に通っていました。当時の幼稚園は今の芝ブルー付近にありました。増上寺にある園は夏季限定です。

そのころは芝公園でよく遊んでいました。人数が集まると芝公園で、かくれんぼ、掘割でのザリガニとりなどして遅くまで遊んだものです。弁天池周辺など、遊ぶところには苦勞しませんでした。御霊家や各寺院から寄進された冥加灯籠がたくさんありました。御霊家の天井は金箔が張ってあってとても立派な建物で綺麗な場所でした。増上



日が暮れるまで 虎ノ門界隈で遊んだ思い出

放課後、芝西久保明舟町、琴平町、櫻川町の子どもたちは、金刀比羅様の裏にあった虎ノ門公園(現:虎の門三井ビルディング)や東伏見宮、宮邸(現:虎の門病院、国立印刷局)の空き地に集合して、戦争ごっこなど日が暮れるまで遊びました。私の家は畳屋で、他に大工の倅、魚屋などいろいろな家業の子がいたので、竹や木の切れ端などを使って、結構立派な遊び道具を工夫して作っていました。

虎ノ門は東京市電や地下鉄があり当時から交通の便がよい所でした。近所中の路地にチョークで線路を敷いて、紐の電車で町じゅうを走り抜けました。駅は友達の家。私は「市電の運転手」にあこがれていたのも、いつも運転手が車掌の役でした。たまには役のことでけんかも…そんな時は近所にあった駄菓子屋で仲直り、といった具合です。

戦火を逃れて疎開中、 空襲で自宅が全焼

小学校を卒業するころは、だんだん戦況が悪くなってきて、地方から召集された兵隊さんの宿舎として家を提供するようになりました。私の家では2人お世話をしました。その兵隊さんたちが出兵する壮行会では、日の丸の旗を持って見送りしました。一緒に生活をして家族のように感じていたので、全員無事に帰ってきてほしいと思いながら一所懸命旗を振って見送ったのが昨日のように思い出されます。でも、その人たちがどうなったのか…今となっては知るすべもありません。

あの頃、戦争があった

昭和20年(1945)の3月だか5月だかはっきり覚えていませんが、戦火を逃れ幕張にある父方の祖父のところに疎開していたとき、空襲で家が全部焼けてしまったと連絡がありました。急いで東京に戻ると、家があったはずのところはなにもかもなくなっていて、とても寂しく辛い思いをしました。芝西久保櫻川町の一部は焼けたけど、アメリカ領事館のあった赤坂葵町方面は焼けなかったようです。焼け野原のなかで父が廃材を集めてバラックを建てていると、熔けて一塊になったお金が出てきました。空襲の恐ろしさを心の底まで思い知らされました。



空襲の焼け跡から出てきた熔けた硬貨

虎ノ門は私の誇り、そして故郷

虎ノ門はアメリカの駐留軍の近くだったので街の復興も比較的早かったようで、人懐っこいアメリカ兵からチョコレートやガムをもらったりしました。母親が新聞関係のところに勤めていたので、英字の新聞をアメリカ兵に売ったりしていました。今は見ることもない十銭の軍票や、大日本帝国政府発行の1セント紙幣が使われていました。



駐留軍が使っていた十銭の軍票

戦争という時代を越えて虎ノ門とともに歩んできたことが誇りです。大好きな虎ノ門は都心ですが私の故郷です。これからもよろしくお願いします。

空襲がだんだん激しくなり、集団疎開で親元を離れ千葉に行きました。後で聞いた話ですが、芝公園にもたくさんの爆弾が落とされたそうです。

こぼれた水を食べに、 線路を越えて行ったことも

家の仕事は洋服屋ですから、職人もたくさんいました。父は戦争中、国から徴用され、軍服などを作っていました。私に洋服屋を継がせたかったと思います。戦後になりますが、中学からは獨協に通っていました。今の第一京浜のところから都電1番で上野行きに乗り、途中で早稲田行きに乗り換え、江戸川橋の近くの学校まで通ってました。戦後になり、落ち着いてくると私たちの遊びも変わり、場所も広がりました。今の東京都計量検定所のあたりに製氷工場があり、夏は芝離宮まで線路を渡って、こぼれた水を食べに行きました。東京湾にはよく釣りに父と弟と一緒に行きました。特殊な針にろうそくをつけて、イカがよく釣れましたよ。このあたりは原っぱで、今の世界貿易センタービルは都電の修理工場、そこから花電車が出てとても楽しかったです。

私の住んでいる芝大門あたりも戦争で焼けましたが、生まれてこの方住み続けてこれたことに感謝しています。芝大門も同級生が転出するなど、古くから住んでいた人が少なくなり、寂しくなってきました。でも、この地が大好きです。これからもずっと住み続けたいと思っています。

【芝歴史探訪】

愛宕下遺跡(港区NO.149)発掘調査から

田村氏・一関藩上屋敷跡

新橋4丁目、旧田村町ですが、父の代から御菓子司致して居りました場所を含め環状二号线道路の再開発事業に伴う地域で遺構発掘調査があったと聞き、この地についての一席、口上を述べさせて戴きます。

田村邸の火の見櫓・大銀杏

平成16年(2004)10月から平成17年(2005)まで、当地を含む一区画を「愛宕下遺跡(港区149遺跡)」として東京都埋蔵文化財センターによって調査・分析されました。

その結果、遺構から大形構造物基礎を掘り出し、5mのX状基礎、柱一辺30cm、中央に向け13度の傾斜、さらに、7mの井桁状基礎、柱一辺40cm、中央に向け13度傾斜を調査している。X状と井桁状の2つの構造物基礎は、一体何でございましょうか。



(写真提供: 東京都教育委員会)

担当の五十嵐研究員は火の見櫓ではないかと推定し(註1)、文久3年(1863)ごろ横浜に来たイギリス人写真家F・ベアト様(註2)の写真で、愛宕山から愛宕山下の大名屋敷、銀座方面が収められている写真(1865年)に田村氏・一関藩上屋敷の火の見櫓と大きな銀杏が写っているのを見つけられたのでございます。



愛宕山から江戸武家屋敷町を望むパノラマ写真(撮影:F・ベアト/1865)

忠臣蔵の起こり、 田村邸での切腹はなぜ?

田村氏・一関藩上屋敷跡と云えば、元禄14年(1701)3月14日、忠臣蔵でお馴染みです。討ち入りから47年目(奇しくも47年目)、寛延元年(1748)8月、竹田出雲等は義と愛をテーマに浄瑠璃「仮名手本忠臣蔵」を書き、四段目「来世の忠義」で塩冶判官(浅野内匠頭様のこと)、ご切腹の場面がこの屋敷に相成ります。一関藩藩主様は歴代11人中6人が位階従五位下、官職右京大夫(うきょうのだいふ)に任じられ、それで今も上屋敷が「田村右京大夫」屋敷と云われているのでございましょうか(註3)。

浅野内匠頭様切腹が、どうして一関藩上屋敷になったのかも謎で、さらに火の見櫓とも結びつきません。調べますと、当時の藩主田村建顕(た

けあき・1657-1708)様は、大名・旗本が將軍様に拝謁するときに姓名・献上品の披露、將軍様よりのお下賜品のお伝えをする江戸城奥詰の奏者番(そうしゃばん)に任じられておりました(註4)。

藩史によれば、事件当日、江戸城で奏者番の詰の間に、「誰が詰めているか」と、当番と非番の田村建顕様と返答、若年寄井上大和守様から「田村は浅野家と姻戚関係がないか」と問われ、「ない」とお答えすると、浅野様の預かりを命ぜられた由にございます(註5)。月変わりのお役のようでもたまたまのお役なのです。

大名火消し

さらに、藩史に祖は坂上田村麻呂に、家紋は車前草(オオバコ)で、仙台藩支藩、石高三万石、領地は現在の岩手県一関市周囲、江戸に芝愛宕下大名小路(現新橋4丁目)に上屋敷3440坪、

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。ウォーキングマップとしてご利用ください。



- 17 愛宕下遺跡(港区NO.149)発掘調査から 72
- 18 芝地区昭和の地域力再発見事業拠点「芝の家」 82
- 19 港都税事務所 82
- 20 福祉プラザさくら川 82
- 21 愛宕警察署 82

中屋敷が芝愛宕下の神保小路に、下屋敷が青山百人町にございました。上屋敷は享保16年(1731)と嘉永3年(1850)に江戸の火事で類焼しております(註6)。

幕府へのご奉仕は江戸城諸門の警備、火消・火の番、勅使・院使の御馳走役、土木普請などでございました。火消・火の番は大手組・桜田組などの方角火消が命じられ、寛政2年(1790)の桜田組火消は総勢夜で255人でございました(註7)。

大名屋敷の多い桜田方面・愛宕下小路の火の番のために櫓の建築は許され、埋蔵物の関係から、前述のいずれかの江戸の火災で井桁状基礎の火の見櫓が焼け、その後にX状基礎の火の見櫓を再建したと五十嵐研究員は推定しております。

こんな軌跡が描かれた新橋4丁目の田村右京大夫屋敷にまつわる一席でございました。

(文 ■ 渡辺 仁久、森 明)

- (註1) 五十嵐 彰 港区NO.149あるいは赤穂藩池田家・一関藩田村家屋敷跡について、江戸遺跡研究会会報NO.104
- (註2) 横浜開港資料館 横浜のはじめ考 p.142
- (註3) 大島 晃一 一関藩 p.26、30
- (註4) 大島 晃一 前掲書 p.48-49
- (註5) 大島 晃一 前掲書 p.51-52
- (註6) 大島 晃一 前掲書 p.51-52
- (註7) 大島 晃一 前掲書 p.82-83

第3回
ふれ愛まつりだ、
芝地区!
を 開催 しました



「ジ・アース&ピースコンサート」芝地区の合唱団



芝保育園園児のフラダンス

今年も天気! 晴ればれ。恒例の「ふれ愛まつりだ、芝地区!」が9月6日(土)に区立芝公園で行われました。

前日の雲行きで、雨が予想されましたが、祭りが始まるころには快晴。夏の天気になり、暑い日に。会場は子どもからお年寄りまで、熱気があふれていました。

本年も環境と平和をテーマに、平和の折り鶴や公園内にある「平和の灯」のスケッチ、また本年から戸板女子短期大学のオリジナルキャラクター「芝次郎」をかたどった記念品グッズの配布、さらに環境と平和事業で自然体験を実施している茨城県阿見町の出店など盛りだくさんの内容になりました。

1部の地域ふれ愛コンサートでは芝神明子供お囃子会の太鼓と、金井泰子実行委員長の開会宣言ではじまり、保育園児の和太鼓、小学生のバンドなど交流ステージが繰り広げられました。本年は高木美保さんのエコトークも行われた交流イベントとなりました。

2部のジ・アース&ピースコンサートでは、杉田二郎さん、白井貴子さん、アフリカン・スヌヘルコムライブが行われ、最後はプロのミュージシャンと芝地区で結成された合唱団の「戦争を知らない子供達」の合唱で終わりました。

『芝の家』芝3丁目にあらわる

芝地区昭和の地域力再発見事業

『芝の家』を初めて耳にされた方も多いと思います。去る10月4日(土)にオープンした、昭和をイメージした地域の交流拠点です。

どうして地域の交流拠点を作ったかというと、昭和30年代にあったようなあたたかい人と人とのつながりを再生するためです。昭和30年代、まちには人が行き交い、子どもたちは路地を飛び回り、活気に満ちあふれていたまちの姿を皆さん想像されるのではないのでしょうか。今は、マンションのお隣さんが誰かも知らない時代だとか。隣近所や地域で支えあうことが薄れてしまっていたり、地域の人の顔もわからなかったりで、地域の方々の目による地域の見守りも難しいことが容易に想像できます。

この『芝の家』を拠点にして、子どもからお年寄りまでのすべての世代が交流していただくことで、まず、顔見知りになることから始めて、あたたかい人と人とのつながりを再生し、子どもがおもいっきり遊べ、高齢者が安心して暮らせる安全安心な地域づくりを目指します。

『芝の家』は昭和を感じさせる古い建具などを利用して改装しました。とても居心地の良い空間です。一度、足をはこんでみませんか。



昭和30年代をイメージした「芝の家」の風景



芝地区昭和の地域力
再発見事業拠点「芝の家」
芝3-26-10

※港区と慶應義塾との連携協力に関する基本協定を締結※

『芝の家』を中心とした芝地区昭和の地域力再発見事業は、芝地区総合支所と慶應義塾大学との協働により進めている事業です。この事業が契機となって、港区と慶應義塾の双方がもっている資源を互いに活用し、将来にわたって連携・協力することを推進する基本協定書を、10月4日『芝の家』のオープンの際に、港区長・慶應義塾長により締結しました。



港区長 武井雅昭、慶應義塾長 安西祐一郎の両氏により基本協定を締結

●問い合わせ先 芝地区総合支所地区政策課 TEL 03-3578-3191

作品募集

芝地区「心の風景」
の写真を募集します

皆さんの心に残る場所・大切にしたいものは何ですか? 昔から変わらない路地裏、思い出の場所、これからも残し続けたい芝地区のいいところ……写真を募集します。ご応募は芝地区総合支所地区政策課(TEL 03-3578-3191)まで。お待ちしております。

芝地区地域情報誌・編集委員を募集しています!



芝地区の話題を
発掘し、取材していただく
地域情報誌・編集委員(記者)
を募集します

【対象】芝地区管内に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

【内容】地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など(年間4回発行予定)1回の取材などで平日の昼夜間に2時間程度、平日夜間に発行予定ごとに1回編集会議への参加があります。

【申し込み】氏名、住所(在勤、在学の方は所在地)、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、下記の芝地区総合支所地区政策課まで、FAXまたは郵送で申し込みください。

【その他】報酬等の支払いはありません。

★本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
岩崎秀顕/大澤佳枝/桑原庸嘉子/小知和千佳子/
小林真紀子/鈴木あかね/森明

★また今後の発行スケジュールは次の通りです。
H21.2.20発行(第10号)

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1~3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設にて配布しています。

都税についてのお知らせ

インターネットでらくらく申告!



平成20年9月22日から、

- 事業所税の電子申告、電子申請・届出
- 法人事業税・都民税の電子申請・届出

が始まりました!

新たに利用可能になったサービス

	電子申告	電子申請・届出
事業所税	- 納付申告 new - 修正申告 - 免税点以下申告 - 事業所用家屋貸付等申告	事業所等新設・廃止 new
都民税 法人事業税	- 予定申告 - 中間申告 - 確定申告 - 修正申告 - 清算確定申告 など	- 法人設立・設置届出 new - 異動届出 - 法人税に係る確定申告書又は連結確定申告書の提出期限の延長の処分等の届出 - 申告書の提出期限の延長の承認申請

利用手続きについてのお問い合わせ

エルタックス (社団法人 地方税電子化協議会)

eLTAXイメージキャラクター
エルレンジャー



ホームページ <http://www.eltax.jp/>

検索なら エルタックス 検索 クリックでヒットします!

サポートデスク TEL 0570-081459 (IP電話・PHSから: TEL 03-5339-6701)

※午前8時30分から午後8時00分まで(土日祝祭日・年末年始を除く)

利用届出、申告、申請・届出の内容や審査についてのお問い合わせ
所管の都税事務所までお願いいたします。

●問い合わせ先 港都税事務所 TEL 03-3453-3211

『福祉プラザさくら川』で
オペラ公演!

9月18日(木)に福祉プラザさくら川で、ドイツとイタリアで発声法を勉強したオペラ歌手、森智子さんのボランティア公演がありました。多くの利用者の前で、イタリアの歌、日本の歌「赤とんぼ」などを熱唱。利用者から「自分の足跡」を見つめることができたことの喜びが伝えられました。



福祉プラザさくら川
新橋6-19-2
TEL 03-3433-0180

「みなとコール」は
暮らしの疑問にお答えします!



区役所のサービスや施設案内、催し情報など、お気軽にお問い合わせください。

年中無休/午前7時~午後11時

※英語での対応もいたします。

ゴヨウ(は)ナーニ ミナト(コールです)

TEL 03-5472-3710
FAX 03-5777-8752

Eメール: info@minato.call-center.jp

警視庁犯罪被害者
ホットライン

被害者や家族の
相談窓口です。

迷わずに
勇気を出して
相談してください



匿名でもOK 秘密厳守 お気軽に

TEL 03-3597-7830
FAX 03-3592-6840

愛宕警察署

港区芝地区総合支所地区政策課

所在地: 〒105-8511 東京都港区芝公園1丁目5番25号(港区役所2階)
TEL: 03-3578-3191 FAX: 03-3578-3180
ホームページ: <http://www.city.minato.tokyo.jp/sisyo/siba/>